

\*\*\*\*\*

## 「海風」

明治維新の怒濤は地方の農村にも押し寄せ、江戸時代の閉塞感を空の風に吹き飛ばした。農家に生まれた澤造には兄がいたので農家になれる身分ではなかった。当時は分家をするると規模が縮小するので分家をする者を田分け者と蔑んだ。澤造はいずれ、世界で思う存分活躍出来ると夢見たが、農家の養子になる運命が待っていた。また農家に逆戻りかとはがっかりした。それでも、地域では最初に鬻を切り、散切り頭で進取の気概を持ち続けた。

澤造に長男保平が生まれると後継が出来たと喜んだ。だが、次男の善平が生まれた時は、将来を思いやった。善平は、誰よりも読み書きが好きであった。冬の夜長は、行灯で本を読んだ。「善平、もう遅いから寝たらどうか」と澤造が言った。続いて、「お前は将来何になるつもりだ」と聞いた。「おやじは、百姓には学問は要らんとするが、俺はもっと学問をしたい」と答えた。それを聞いた保平は、「俺は学問が要らない百姓か」とすねて見せた。

善平は中学生の頃、「俺は軍人ではなく、教師になる」と父に話した。澤造は、息子の話を聞き、困った顔をした。「これからは、学問や技術で生きて行く時代だ。どうか、師範学校へ行かせてくれ。」家中で議論の末、澤造が折れた。明治三十年頃、善平は師範学校に入り、各地から集まった学生達と学び、将来を語り合った。田舎育ちの善平にも、ようやく世界が見えてきた。

善平は、学友の野村に、「お前は本を作れ、俺は人を作る」と言い、学校経営の夢を抱いた。やがて、女子教育も盛んになり、女子師範学校が設立された。卒業が迫る中、善平は楚々とした雰囲気漂う、あきという女子学生に心が惹かれ、交際を始めた。善平はあきと結婚したいと胸をはずませた。思い切って、将来を描いた恋文を送った。いくら待てども、返事は来なかった。年の瀬が迫って、長文の返信が届いた。

「先日はお手紙下され誠に有難く存じ候。貴兄のお手紙により、まだ見ぬ我が家も、目のあたりに見たる如き心地せられ、幾度となく読み返し候。故郷の晩秋の景を眺むれば、身のはかなさもそぞろに忍ばれ候」とあり、善平ははっとした。勉学にやつれた上、重い病気にかり、手紙が遅れたことを詫び、教育や倫理に関するあきの考えが思いを込めて綴られていた。

文末には、「あわれ君よ、かかる無知無徳なる女子をして善良に導き給えば、我々女教師のこの上もなき幸せと存じ候。なにとぞ女子教育に尽くし給わりたく伏してお願い申し上げ候」とあった。あきは、女子教育の先駆者ヒュース女史の講演を聞き女子教育に生涯をかけようと心に誓っていた。善平の胸に冷たい風が吹き抜けた。気丈なあき故、元気なら、結婚より教師や伝道の道を歩むだろう。現実には、それさえ叶わず、善平に女子教育の夢を託したのだ。

もう、あきは、この世にいない。善平はあきの手紙から啓示を受けた。自由の国アメリカへ渡り未来を切り開くのだ。「おやじ、俺は女学校を作るために、アメリカへ渡って仕事をする。成功するまで帰らない。これが最後の願いだ。頼む」澤造は言葉を失った。「善平、気は確かだろうか。」「俺を信じて下さい。」澤造はあちこち手を尽くし、織物業の有力者に保証人になってもらった。母とみは、「わし等はいつまでも待っているよ。」と善平を見送った。

善平は、苦難の末、憧れのニューヨークに落ち着いた。輸出用に試作させた絹織物の市場調査や商社のような仕事にも挑戦しつつ、学問に励んだ。十年程は瞬く間に過ぎた。試行錯誤の末、渡米者を支援するキリスト教会の仕事を天職にしようと決めた。善平は、自分が企画した集会で、うら若い、はるという日本人女性に巡り会った。「はるさんは、なぜアメリカに来たのか」と聞くと、女子教育と答えが返ってきた。善平に衝撃が走った。やがて、二人は結婚して二人の娘を授かり、洋々とした前途が開けて来たと思った。

しかし、第一次世界大戦前後から、自由の国アメリカが大きく変貌し始めた。日本人排斥運動が盛んになり、日本人社会にも暗雲が漂ってきた。「善平、このままアメリカにいるのは危険だ。家族を連れて帰国すべきだ。」と友人の月田等は強く帰国を勧めた。善平は父との約束を反故にする無念さに打ちひしがれた。帰国後、妻の郷里に身を寄せて甥の和馬に手紙をしたためた。

「拝啓 その後は久しくご無沙汰に打ち過ぎまことに申し訳ありません。私儀 相変わらず人様のために働いて居ります故ご安心下さい。」こう書き始めると善平の目頭には熱い物が流れた。善平が二十年振りに帰郷すると、「よく帰ったな」とすっかり老けた母が迎えてくれた。手短に、父の墓参りや近隣の人々に挨拶をして、再び家族の元へ引き返した。新しい事業や再渡米の計画を進めて、機会到来を待ったが、その日は永久に来なかった。上州の地に吹いた風は太平洋を渡りニューヨークまで届いていたのだが。

Copyright © <http://af06.kazelog.jp/> 2016

\*\*\*\*\*